園だより

令和４年１２月１日

社会福祉法人新田保育園
園長　大西　陽子

『どこをのぼる？　どうやってのぼる？』

まもなく冬まつり。4 歳児りす組の部屋を覗いてみると、おばけになりきってみんなを驚かせようと『こわい音』について研究の真っ最中。「こわいおとってどんなおとがいいかな」「びっくりするおと？」「ドンドンとか」「カサカサは？」「ヒューっていうのはどう？」次々に意見が出ます。そこで保育者が「こんなのはどう？」と本物の楽器を並べてみると「さわってみたい」「ならしてみる」と思い思いに音を出しますが「きれいなおとだとこわくない」と言うのです。ではどうするか？「つくりたい」子どもたちから声があがりました。普段から廃材で制作遊びを楽しんでいるりす組。どんな楽器を作るかイメージし、作ったもので隣のひよこ組に行ってみました。「こわ～い」という声に「だいせいこうだね」と嬉しそうなりす組。続いて事務所にもやって来ました。「こっちの音は怖いけれど、こっちはあんまり音がしないね」という客観的な大人の意見に、部屋に戻ると『こわい音』についてまた話し合いが始まりました。さて、冬まつりはどんな音が飛び出すのでしょうか。

子どもたちが生き生きと楽しく過ごす、そのために必要なのは“なんで？”“どうして？”“おもしろそう”という興味・関心・好奇心を、自分の考えで満たすことのできる環境です。こうかな、ああかなとあれこれ試して、解明したり完成した時、その過程と結果が学びと自信になります。子どもたちの目がキラキラと輝き、心も身体もぐんと大きくなる瞬間です。けれどそれには大人が困るような寄り道や脱線がつきもの。でも大人は時間をかけたくない、困りごとは回避したいので方法や正解を教えます。子どもだって失敗するより褒められたいので、寄り道や脱線をせず、方法や正解を教えてくれるのを待つようになります。自分の発想や考えで回り道したり失敗したり叱られるより、大人の言うとおりにする方が褒められるからです。そうなると子どもたちの興味・関心・好奇心は返って邪魔なものになり、方法や答えを教えてもらう受動的な学びになります。

自由に考え自由にやってみるという能動的な学びを子どものうちにどれだけ経験するかで、人としての成長の仕方は大きく変わります。私たち大人は、一つの山の頂上から子どもを呼び寄せるのではなく、どの山を登るのか、どうやって登るのか子どもと一緒に考え、山道で見つけたものや眺めた景色も共有しながら共に山頂を目指す存在でありたいと思います。

文責：斉藤 千鶴子

◆1 月 20 日（金）に予定していた『おみせやさん』は、1 月 26 日（木）に変更になります

◆保育初めは 1 月 4 日（水）です

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
12月	頭ジラミチェック				りんご組個人面談週間	→	→	→	→	冬まつり				健康診断（0・4歳児）	避難訓練	身体づくり懇談会（配信）				健康体育（3・4・5歳児）		ぞう組プラネタリウム	誕生会・写真の日					保育納め			